

令和7年度 長野県小諸商業高等学校 学校評価 自己評価（中間）

令和7年10月

A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

| 学 校 教 育 目 標                                                                                 |      | 中 ・ 長 期 的 目 標                                                                                                            |                                                                                                                    |
|---------------------------------------------------------------------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教育活動を通して、個人の尊厳と協調の精神を体得させ、民主的な国家社会の形成者たる資質を培うとともに、専門教育により広く国民経済における商業諸活動の担い手としての有為な人材を育成する。 |      | ・心身ともに健全で、人間性豊かな生徒を育てる。<br>・学校及び社会生活の規律を重んじる心を育てる。<br>・学習習慣を確立させ、自ら学び自ら考える態度を育てる。<br>・進路目標を明確にさせ、その実現に向けて粘り強く努力する姿勢を育てる。 |                                                                                                                    |
| 今 年 度 の 重 点 目 標                                                                             | 分 掌  | 評 価                                                                                                                      | 今後の課題・改善策等                                                                                                         |
| 1 基本的生活習慣の確立および、挨拶・身だしなみの徹底を図る。                                                             | 1 学年 | B                                                                                                                        | 概ね良好であるが、長期休業明けより指導対象となるものも複数いる。全体への注意喚起と個別指導を継続し、根気よく声掛けを行っていく。                                                   |
|                                                                                             | 2 学年 | B                                                                                                                        | 指導に従う素直な面があり概ね良好ではあるが、一部の生徒の乱れが気にかかる。全体的な指導と個別の指導とを継続する。家庭にも協力を促し、安定した学校生活・家庭生活を送れるよう支援する。                         |
|                                                                                             | 3 学年 | B                                                                                                                        | 挨拶については概ね良好であるが、身だしなみについて不十分な生徒がいる。進路活動に伴って改善されたことが継続できるよう、粘り強い指導を継続していきたい。                                        |
|                                                                                             | 生徒指導 | B                                                                                                                        | 生活習慣と挨拶に関しては概ね良好である。身だしなみについては日々の指導により一定の成果はあるが、不十分な生徒も見られ今後も粘り強く指導を続ける。                                           |
| 2 自ら問いを立て、その解決に向けて主体的・協働的に取り組む力を育成する。                                                       | 1 学年 | B                                                                                                                        | 多くの教科/科目においてグループワークをとおして主体的・協働的に取り組む姿がある。学年やクラス内でも同様に活動できるよう引き続きサポートを続けていく。                                        |
|                                                                                             | 2 学年 | B                                                                                                                        | 生徒会行事や学年行事等でリーダーシップを発揮するなど自主的に活動する姿が見られた。今後は、消極的な生徒により寄り添いながら、主体的に活動できるようにサポートする。さらに生徒自ら選択し行動する機会や場面を作っていく。        |
|                                                                                             | 3 学年 | B                                                                                                                        | 自分の進路に向けて主体的に活動する生徒がいる一方で、教員の指示がないと行動できない生徒も存在する。今後も粘り強く指導を続けていく。                                                  |
|                                                                                             | 進路指導 | B                                                                                                                        | 日頃の学校生活で、他者との対話を通じて視野を広げながら、積極的な取り組みができる環境作りを心がけなければならない。ビジネス探究プログラムを基礎として探究活動をどのように取り組み、活用していくかを関係部署と情報共有する必要がある。 |
| 3 地域社会との連携や協働による活動を通し、探究的な学びを推進する。                                                          | 商業科  | B                                                                                                                        | ビジネス探究プログラム、小諸探究、課題研究、デュアル実習等の授業において、自治体、企業、各種団体、学校との連携や協働による活動が増えてきている。活動内容について検証を実施しながら、さらに探究的な学びを推進していきたい。      |
|                                                                                             | 生徒会  | B                                                                                                                        | 昨年に引き続き、小諸高校や市選挙管理事務局等、地域の方と連携しながら行う取り組みを継続している。今後、これらの活動を新校につなげていく方法も含め、探究的な学びに繋がるような工夫を検討する。                     |
| 4 学習活動や様々な行事等へのICTの積極的活用、および知見の共有を推進する。                                                     | ICT  | B                                                                                                                        | 生徒、教員ともにICT活用スキルが向上しており、行事や授業で活用している。引き続き機器の管理、整備を行い、必要に応じて研修等開催する。                                                |
|                                                                                             | 教務   | B                                                                                                                        | DX事業で導入されたICT機器を、式典や体験入学で利用した。今後は多くの職員が使用できるよう研修等を行っていく必要がある。                                                      |
|                                                                                             | 生徒会  | B                                                                                                                        | リモートでの行事や小諸高校との合同生徒会での議論に際し、DX事業で導入された新しいICT機器を積極的に使用した。今後、各種行事で活用しながら効果的な使い方を模索する。                                |
| 5 生徒一人ひとりの人権を尊重し、いじめ・体罰等のない、安心安全な学校をつくる。                                                    | 1 学年 | B                                                                                                                        | 生徒会行事や学年行事等でリーダーシップを発揮するなど自主的に活動する姿が見られた。今後は、消極的な生徒により寄り添いながら、主体的に活動できるようにサポートする。さらに生徒自ら選択し行動する機会や場面を作っていく。        |
|                                                                                             | 2 学年 | B                                                                                                                        | 全体的に目立った問題はないが、他者との関わりが苦手であったりうまくできなかったりする生徒が存在する。個々の状況を踏まえ、情報共有や連携をしながら丁寧な相談・指導を継続していく。                           |
|                                                                                             | 3 学年 | B                                                                                                                        | 進路や人間関係について不安や悩みを抱えている生徒がいる。関係職員と協力しながら対応していきたい。                                                                   |
|                                                                                             | 人権平和 | B                                                                                                                        | 生徒の人権意識向上のため、講演会を実施した。今後も啓発活動を継続していく。                                                                              |
|                                                                                             | 生徒相談 | B                                                                                                                        | 今後もいじめ悩みアンケートやアセスを実施し、今後に活用する。                                                                                     |